

# 山口県医師会報

平成29年(2017年)

1月号

— No.1877 —

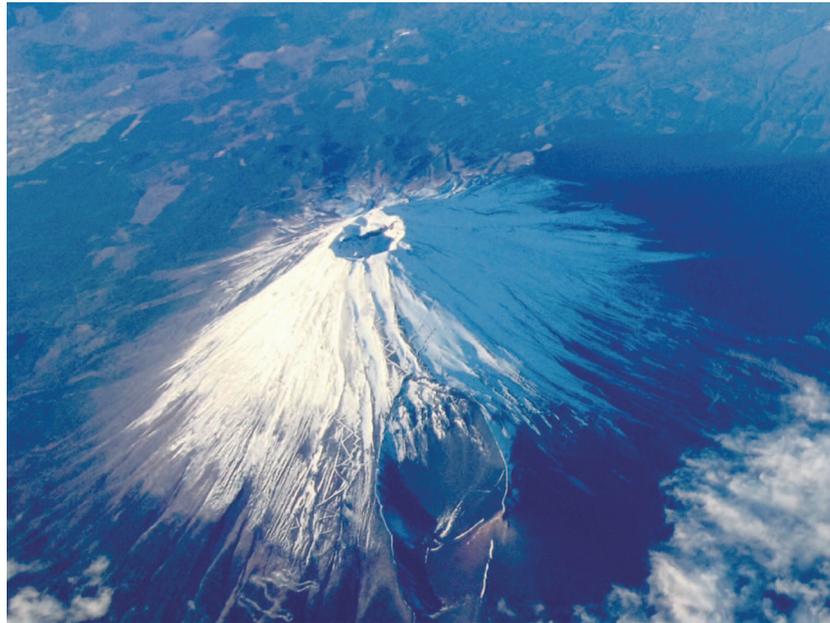
新年特集号



炉辺談話

● 表紙の写真に寄せて

表紙



2013年12月1日、全日空の山口宇部・羽田便がスターフライヤーとの共同運航体制になり、全日空便の5往復のうち2往復がスターフライヤー3往復へと変更された。前日の11月30日、羽田空港からの帰りに機内でうとうとしていると「富士山上空を通過中」のアナウンスが。ほぼ真下に富士山の火口が見える。夢中で iPod touch を用い撮影した。最後の ANA695 便ということで、わざわざ通過してくれたのだろうか？

裏表紙



2016年1月9日に汐留のホテルから iPhone 6S plus で撮影。東京タワーと朝日が反射するグリーンヒルズ森タワーとの間、遠くに富士山が見える。右奥には六本木ヒルズが。空気がきれいな冬の早朝の一枚。

山  
口  
市  
  
中  
村  
  
洋

# Contents

■表紙の写真に寄せて .....	山口市 中村 洋	2
■年頭所感		
山口県医師会長 河村 康明 .....		4
日本医師会長 横倉 義武 .....		6
山口県知事 村岡 嗣政 .....		8
		
大伴家持 .....	山口大学 しまふくろう	9
縄文という時代 .....	山口大学 しまふくろう	12
真田幸村の子、幸晴 .....	徳山 板垣 明味	14
四万十川ウルトラマラソン 100 キロの部完走記		
～ゼッケンナンバー 1 は絶対にリタイア出来ない番号～	宇部市 金沢 守	17
なぜ此処に .....	徳山 吉次 興茲	20
野生のエルザ (Born Free) .....	下関市 塩見 祐一	22
「善悪二元論」と「神意・天命」		
—刎頸の友 福島県医師会長とのこと— .....	萩市 山本 貞壽	24
山口県の道の駅めぐり その 2 .....	徳山 若林 信生	26
■新都市医師会長インタビュー「長門市医師会長」 .....	堀 哲二	30
■県医トピック .....		35
■2017 年のスギ・ヒノキ花粉数の予測 .....	沖中 芳彦	36
■今月の視点「タバコにまつわる話題」 .....	藤本 俊文	40
■フォトコンテスト審査会 .....	今村 孝子	43
■県民公開講座「走快人生 はしって健康」 .....	石田 健	44
■平成 28 年度 郡市医師会産業保健担当理事協議会 .....	藤本 俊文	46
■平成 28 年度 郡市医師会学校保健担当理事協議会・		
学校医部会合同会議 .....	藤本 俊文	48
■理事会報告 (第 17 回) .....		52
■日医 FAX ニュース .....		55
■女性医師エッセイ「女性医師活躍におけるレジリエンス」 .....	戒能 美雪	56
■飄々「スーパームーン」 .....	川野 豊一	58
■お知らせ・ご案内 .....		59
■編集後記 .....	山下 哲男	68

炉  
辺  
談  
話

## 年頭所感

山口県医師会長 河村 康明



明けましておめでとうございます。

新しい年を迎えるにあたり、山口県医師会長として一言、年頭のご挨拶を申し上げます。

昨年の 6 月 16 日に第 25 代山口県医師会長に選任・選定されまして、早や 6 か月が経過致しました。会員諸氏のご協力・激励により何とかこの職責を担っております。誠にありがとうございます。この間、9 月末には、平成 28 年度の中国四国医師会連合総会を山口市で成功裏に執り行うことができました。改めまして、会員の皆様方・スタッフのご協力に感謝いたします。本年も難問山積ではありますが、「オール山口」を合言葉に着実に進んで参ります。

### 1. 看護学校について<看護学校の灯を消すな>

会長就任後、まず最初に、この問題に着手しました。県内に医師会立の看護学校が 8 校ありますが、どの学校も、学校存続か否かの危機的状況にあると考えたからです。また、バックグラウンドには財政的な課題を抱えていることは周知の事実ではありますが、同時に看護教員不足・入学志願者の減少などがあります。何とか教員養成段階において e-ラーニングや定期的な養成講習会の開催ができないものか検討しております。また、志願者の減少への対策として、近隣の医師会と共同して生徒募集に協力していただければと考えております。ご存知のように、医師会立の看護学校の卒業生の県内定着率は 90% になろうとしております。各医療機関の大切な人材であることから、更に検討を要することと考えます。

### 2. 地域医療構想について

<緩やかに時代の変化に対応して>

一昨年来、地域医療構想が 8 医療圏で議論されてまいりました。山口県の入院受療率（療養病床）は全国 2 位で、主に病床数が影響しているようです。しかも、全県的に慢性期病床が過剰で回復期病床が少ないという実態が明らかになりました。昨年 7 月にはその素案が作成されましたが、県医師会としての基本スタンスは病床の変化（削減）は地域の必要性によって決まるものであり、自然に、緩やかに時代に即して変化するもので、決して強制的手段で変わってはならないと考えています。数値目標はあくまでも目標値であり、それ以外の何物でもありません。昨年より調整会議が各圏域で開かれており、その下部組織として検討部会も開催されはじめました。地域の実情に促した結論が得られるように希望致します。本来、この問題は病院や有床診療所がプロフェッショナル・オートノミーとして自ら決定していくものであり、過去の病床数の減少が示していることから明らかです。

### 3. 地域包括ケアについて<町づくりに参加を>

2025 年問題を解決するための町づくりの一環である地域包括ケアシステムについては、重点課題と位置づけて取り組んでいるところですが、山口県では高齢化が全国より 10 年早く先行しており、高齢化率は全国 4 位です。多職種の連携によって医療・看護・介護・福祉・住居のバランスを総合的に保ち、「見える化」を行いつつ、住民と向きあうことは、医療だけでは不可能であります。特に行政とのパイプを十分保ちながら活動してい

くことが重要であり、団塊世代が後期高齢者となる時期だけではなく、団塊ジュニア世代が後期高齢者となる時が肝要だと考えており、長期的なビジョンを持って参画していく必要があります。

#### 4. 医学生・女性医師・勤務医について

##### ＜人づくり、組織づくりを＞

医学部入学者の 40% を女性が占める時代となり、彼等（彼女等）がいかに関学・医療に携わりながら人生設計を成していくのかについては、山口県内の医療事情を大きく左右する問題であります。昨年 11 月には山口大学医学部で、本会の理事でもある白澤教授の講義の 1 コマをお借りして、医師会活動について山口県医師会長として講義させていただきました。積極的に医師会の活動を紹介しましたが、ファーストステップとしての意義は大きかったと自負しております。また、女性医師としての社会への貢献は、今後の県内での医師不足を補完するだけでなく、自分自身の人生における位置づけを決める上でも重要であります。

医師会は、女性医師の活躍の場を少しでも拡大できるように、助成していく必要性を痛感しておりますので、更なる支援を検討してまいります。

勤務医問題は、勤務医部会でさまざまなプランを企画・実施されておりますが、郡市医師会・県医師会・日本医師会からなるピラミッド構造への勤務医の参加が、組織づくりには最も重要であることは諸先輩方のご苦勞を拝見して分かっているつもりではありますが、もう一步踏み出していけたらと考えております。日本医師会を先頭に現在、初期研修医の会費無料化、勤務医の会費の軽減が行われておりますので、本会への加入促進にご理解いただければ幸いです。

#### 5. JMAT やまぐちについて

##### ＜災害は忘れたころにやってくる＞

東日本大震災を契機に創設された山口県医師会災害医療チーム「JMAT やまぐち」は、毎年の研修会などでスキルアップに励んでいることはご案内のとおりですが、昨年の熊本・大分における震災発生時には、山口県知事の要請により JMAT

やまぐちは 3 チームの派遣がありました。今回の震災においては、出動要請が日本医師会からではなく、全国知事会を經由しての山口県知事からであったことの意義は大きなものがあります。なお、山口県では、情報収集を行う先発隊の派遣がなく直接現地に出動したため、情報が錯綜し、現地でのトラブルがあったことなどが判明しております。

災害は予測困難ではありますが、柔軟な対応と迅速かつ適切な活動が望まれるため、平時での対応の充実を含めて、さらに研鑽を積んで臨みたいと思います。

#### 6. 医療事故調査制度について

##### ＜医療界と法曹界との繋がりを持って＞

一昨年の 10 月にこの制度が開始されて 1 年以上が経過しましたが、本県では 2 件の報告がありました。全国的にみても予想以上に報告事例が少ないとの印象がありますが、研修会については山口県内では 1 回、また、中四国でも諸会議が行われており、担当者会議を通じて会員が理解できるように努力していきたいと思っております。同時に Ai の普及も重要と考えています。

横倉義武 日本医師会長は 3 期目の就任時に、①町づくり、②人づくり、③組織づくりの 3 点を挙げられ、今後の日本医師会の進むべき道を示唆されました。山口県医師会においても同様のことが考えられ、着実にその歩を進めていきたいと思っております。さらに、横倉日医会長は次年度に世界医師会会長に選出されて、世界で日本医師会の存在感をより高めるべく尽力されることと存じますが、本会としても世界に誇る日本の国民皆保険制度を守るように努力する所存です。

最後に一言、日本医師会員である誇りを持って日本医師会バッジと医師資格証を持った医師が増加することを望みます。

## 年頭所感

日本医師会長 横倉 義武



明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

昨年 4 月、6 年前の東日本大震災の恐怖を再び呼び起こさせるような大地震が熊本で発生しました。会員の先生方におかれましては、JMAT として現地で支援に当たられるだけでなく、多くの支援金もお寄せいただき、改めて感謝申し上げます。

また、昨年は各地で台風を始め天候不順が続き、土砂災害や洪水、更には火山噴火等、さまざまな災害が相次ぎ、多くの方々が避難生活を余儀なくされました。災害はいつ起きるか分からず、万全な備えをしておくことが必要です。日本医師会といたしましても引き続き、災害対策基本法上の指定公共機関としての責務を果たしていく所存です。

さて、2025 年に向けて地域包括ケアシステムの構築が急務となっていますが、本年 3 月までには各地域で地域医療構想が策定されることになっています。各地域における住民の年齢構成や医療資源、交通アクセス等、その置かれた状況はさまざまであり、地域の特性に合わせた構想を策定するためには、地域医療を担う医師会と行政が強固な信頼関係を構築し、各地域に求められる医療の姿を共有していかなければなりません。

わが国では、脳卒中を発症した場合、まずは医療機関に搬送されることとなります。回復すれば自宅に戻り、更にはリハビリや医療サービスが必要

な場合は回復期病棟等や慢性期病棟等で療養を続けたり、介護が必要であれば、老健や介護施設で介護サービスを受けることもあります。また、自宅に帰って再び発症するようなことがあれば、再入院するといったことが繰り返されるわけですが、こうした過程においても、常に患者さんの人生を見守っていく「かかりつけ医」の役割は大変大きいものがあります。最終的に患者さんが安心して旅立たれ、また、家族の方々がその患者さんを心安らかに送り出すところまでしっかりと見届けていく、こうしたことが来るべき超高齢社会における医療の姿なのではないでしょうか。

今年、トランプ米国大統領が誕生し、わが国でも国防問題や経済政策、社会保障を巡って活発な議論が展開されることが予想されます。政府では新たに設置した未来投資会議において、第 4 次産業革命として、ICT の活用により必要なサービスが必要な時に必要な人に届く、超スマート社会の実現を打ち出しておりますが、かかる状況においても必要なことは、人を大事にする政治、政策であると思います。昨年、あるシンポジウムで「国民の健康」についてさまざまな議論を交わす機会がありましたが、その過程においてこの思いを強くしました。

資源に恵まれていない日本が、広大な土地と豊富な資源を有する超大国と互角に対応できた要因は人であり、子ども達の健康と成長を見守りながら、健全な教育を施してきたからに他ありません。医療と教育に対して予算が回らないようであれば、あらゆる意味で国が衰退していくのは明ら

かであり、この2つを犠牲にするような政策は断じて行ってはなりません。

医療政策の立案を担う厚生労働省の方々には、ぜひ医療現場の方々と実際に交流し、その実情を的確にキャッチすることで、現場の声を反映した政策の立案をされるだけでなく、財務省ともしっかり議論され、適正な社会保障財源を獲得していただきたいと思います。

また、昨今では、過重労働による痛ましい悲劇が散見されるようになりました。患者さんの状態が刻々と変化していく中で、夜間、人生の最期を迎えようとする患者さんを前に、勤務時間外だからと帰るわけにはいかず、何日も徹夜して診療に当たったというような経験をお持ちの方も多いのではないのでしょうか。

若い医師の方達には、患者さんに寄り添うというその心をぜひ、受け継いでいただきたいと思いますが、過重労働状態の中で医療を行うことが患者さんのためにはならないことは明らかです。この問題の解決のためには、より働きやすい環境整備に努めることはもちろんのこと、医師の側においても働き方に対する意識を変えていく必要があるのではないかと考えています。

昨年 10 月には、東京工業大学の大隅良典 栄誉教授がノーベル生理学・医学賞を受賞されました。日本人としては、前年の大村 智 北里大学特別栄誉教授に続く 2 年連続の快挙です。大隅栄誉教授は記者会見の席上、「大学の研究環境の劣化により、将来的にノーベル賞が出なくなる」との不安を述べておられました。臨床医学は基礎医学がベースにあって初めて成り立つものです。日本の医学が非常に高い水準を維持できたのは、基礎医学に従事された方々のご尽力によるところが大きく、医学の将来を俯瞰すると、基礎医学の研究に関する環境づくりも、医療界のみならず社会全体で考えていくべき課題ではないかと感じております。昨年 11 月に、安倍晋三 内閣総理大臣にお会いした際に、医療研究に優れた功績を挙げられた

方々を顕彰するため「内閣総理大臣賞」の創設を要望して参りましたが、本賞の創設が実現し、医学研究に携わる先生方の励みとなることを願っています。

終わりになりますが、私は昨年 10 月に開催された世界医師会台北総会におきまして、世界医師会次期会長に選出いただきました。国民の健康寿命を世界トップレベルにまで押し上げたわが国の医療システムやノウハウを広く世界に発信していきたいとの思いで立候補いたしました。現在ではグローバル化の進展と相俟って、医療界を取り巻く多くの問題が国境を越えて立ちまわっております。その解決に向けて、世界医師会が果たす役割はますます重要になると考えており、その責任の重さを痛感しております。

一方、わが国においては少子高齢化に伴う医療提供体制の再構築や医師の地域偏在、診療科偏在の問題、更には医療の高度化等に伴う医療費の増大への対応など、多くの問題が山積しており、わが国の医療が進むべき道筋を早急に示す必要があると考えています。

とりわけ熱かった今年の夏、日本のみならず世界中をより一層熱くさせたあのブラジル・リオでのオリンピック・パラリンピックが、3 年後にはこの日本で開催されることとなります。開催に当たっては、外国人観光客の受け入れ態勢や熱中症対策、更にはイベント関連事故や自然災害、テロリズム等による予測不可能な傷病者への災害医療体制など、多くの課題も残されておりますが、東京都医師会を始め、関係機関とも協力し、その準備を進めていく所存です。

「地域から国へ」、そして「日本から世界へ」を目指し、日医執行部はこれからも一丸となって対応して参る所存でおりますので、会員の皆様方には深いご理解と格段のご支援を賜りますようお願い申し上げます。年頭のごあいさつといたします。

## 年頭所感

山口県知事 村岡 嗣政



明けましておめでとうございます。

新しい年を迎え、謹んで新年のお喜びを申し上げますとともに、皆様にとりまして、今年が素晴らしい年となりますことを心からお祈り申し上げます。

さて、本格的な少子高齢社会を迎える中、私は、「活力みなぎる山口県」の実現を県政運営の基本目標として掲げ、その取組の指針となる「元気創出やまぐち！未来開拓チャレンジプラン」に基づき、新たな県づくりを進めているところです。

今年は、チャレンジプランの最終年度を迎える重要な年であり、施策のさらなる推進を図るとともに、成果を具現化し、目標の達成に向けて全力を尽くすよう決意を新たにしています。

とりわけ、一人ひとりのいのちが大切にされ、不安なく暮らせることは県民生活の基本であり、生涯を通じて健康で安心して暮らすことができるよう、医療・介護の充実に向け、医師や看護師等の確保・育成をはじめ、医療機能の分化・連携の推進、がん対策や救急医療体制の充実、地域包括ケアシステムの構築等について、チャレンジプランの「安心の保健・医療・介護充実プロジェクト」に基づき、重点的に推進してまいります。

このような中、昨年 7 月には、いわゆる団塊の世代が全て 75 歳以上となる 2025 年を見据え、それぞれの地域で必要な医療提供体制を確保するための指標となる「地域医療構想」を策定したところであり、8 つの医療圏ごとに設置した「地域医療構想調整会議」において地域の医療関係者等の皆様に御協議いただきながら、その実現が図られるよう取り組んでまいります。

また、将来にわたって活力ある社会を築いていくためには、人口減少問題への対応は県政の最重要課題であり、チャレンジプランに掲げた取組のうち、産業、地域、人材の活力創出に資する施策を重点的に絞り込んだ「山口県まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、地方創生の取組を進めているところであり、人口減少の克服に向け、その取組をさらに加速・深化させていきます。

とりわけ、少子化の流れを変えるためには、社会全体で結婚や妊娠・出産、子育てを支える環境づくりが重要となることから、総合戦略の 4 つの基本目標の一つに「結婚・出産・子育て環境の整備」を掲げており、周産期医療や小児医療の充実等について、積極的に取り組んでまいります。

もとより、こうした施策を着実に進めていくためには、県医師会の皆様のお力添えが不可欠と考えていますので、一層の御支援と御協力を賜りますようお願いいたします。

今年の干支は「丁酉（ひのと・とり）」です。「丁」には「元気盛り、働き盛り」という意味が、「酉」には「植物が成熟した状態」といった意味があり、さまざまな物事が活発に展開し豊かな実りをもたらす様子を思わせます。

私は、人口減少など困難な課題に引き続き積極果敢に挑戦し、関係団体をはじめ市町や県民の皆様と連携・協働することにより、ふるさと山口県に大きな実りをもたらす年にしたいと考えていますので、皆様の御支援と御協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。



## 大伴家持

山口大学 しまふくろう

先日、奈良に遊び、佐保川縁を散策した。川沿いの桜はまだ、つぼみであった。この川畔にあったらしい古代の名門豪族大伴家の邸跡を訪れたかったのだが、時間がなく見つけれなかった。川畔には桜の古木と、ところどころに万葉の歌碑が立っていた。

大伴家持（718～785）は学童期から、妙に気になる存在だった。彼の大君への忠誠心、光栄にうちふるえる姿、孤独、人間存在への強い探索心、妻や家人への愛情、氏族の長としての葛藤などの心の動きは、現代を生きるわれわれとなんら変わりがない。彼が当時の絶対権力者の目を意識しながら巧みに編纂した「万葉集」は、わが国最高の文学作品の一つであるばかりでなく、優れた歴史書でもある。それよりもなによりも、わが国のありようをつくりつつあった当時の、天皇を含めた歴史上の人物の生の声（こころの動き）が、リズムをもった、まさしく「歌」というかたちで表されている。天智・天武兄弟に愛された額田王の匂い立つような魅力はどう表現したらいいのだ

ろう。こんなすばらしい歌謡集は世界中どこにもないのではないか。

家持は父・旅人が 54 歳のとき、庶腹の子として生まれている。ながらく待たれた初生子である。幼い日に父に引き取られ、育ったようだ。名門大伴氏の期待の大きさは、家持の名がすべてを語っているように思う。実母から引き離され、その愛情に無条件に包まれて育たなかったことが、繊細な心を有し、他者に対しての依存心が強く、氏族の長としての決断ができなかった、かれの性格を形作ったひとつの要因ではないか、と想像するがどうだろう。

大伴氏は古代有数の名門であった。この豪族は河内地域を起源とし、早く 6 世紀以前から世襲王権を確立した大王家（後の天皇家）に服属した。とくにその軍事的伴造を物部氏とともに領掌し、後に王権下の寡頭執政機関たる大連おむらじのしあがった。しかし、540 年の百済への任那 4 県の割譲に参与して、大伴氏は大きく傾く。物部大

連家も 587 年、諸氏族の集中攻撃を受けて滅亡に瀕している。その後の大伴氏は政界を制覇した蘇我大臣家おのおみの下風に立って、余勢を保つのに汲々たる状態であったらしい。

大伴氏再興の機会はやがてやって来た。いわゆる壬申の乱（672）で、曾祖父・吹負らが大海人の号令に素早く呼応したのである。汲々たる状態でも、かれらの軍事的評価は高かったようだ。そのとき父・旅人は 8 歳。あの有名な戦闘歌謡（巻第 18）もこのころにはすでに成立していたのだろう。

彼は父・旅人とともに、太宰府で 10 歳ぐらいから 12 歳までの多感な時代を過ごしている。この時代に彼の政治家、歌人としての原質が形成されたともいわれている。筑前国守山上憶良も近くにいた。太宰府長官の父や憶良のかもし出す官人の公生活や、彼らが開く文雅の営みを子供ながらに見て、学び、肌で感じていたのだろう。父や憶良にとっては中央から遠ざけられた老年の不遇な時代である。しかしその分、人間の生への洞察が深くなり、代表作へと昇華されている。彼らは万葉集巻一、巻二の主人公である柿本人麿とまさしく同時代人であった。

天平 3（731）年、家持 14 歳のとき、父・旅人 67 歳で逝く。彼が見いだしたものは、やがてくる宗家の長としての重圧か、それとも父という重圧からの解放と少年貴族としての自由か。14 歳は当時も今も思春期のまっただ中である。この年代の最大の興味の対象は異性である。このころから、彼は相聞歌（ラブ・ソング）や独詠の歌を記録し始めたのではないか。これらを参考に気の利いた歌を作り、異性をなびかせようと思うのは当然だ。後年、宮廷や公の場で詠み上げられた歌も逐一メモし、その場になかった場合は取材もして集めたのだろう。また、以前から伝わっていた「やまと歌」も情熱を持って集めたに違いない。家蔵のものもあっただろう。そして橘諸兄の後ろ盾のもとに編集した。ある意図を持って、慎重に。

彼は恋多き若き貴族であった。将来、正妻となる坂上大嬢おおいらつめ以外にも、多くの女人にラブ・ソングを送っている。

叔母・坂上郎女と亡夫・大伴宿奈麻呂の間に生まれた長女、坂上大嬢に送った歌一首（家持 16 歳）：

振仰けて若月見れば一目見し  
人の眉引き思ほゆるかも（九九四）

笠郎女かさのいらつめからの情熱的な贈歌も味わい深い：

奥山の岩本菅を根深めて  
結びし心忘れかねつも（三九七）

それに対し、家持は冷淡だ：

今更に妹に逢はめやと思へかも  
ここだ我が胸いぶせくあるらむ（六一一）

このように彼の 10 歳代は過ぎて行った。しかし不思議なことに、当時、飛ぶ鳥を落とす勢いの藤原一族の女人には、ひとつの歌も送っていない。もし、彼が少しでも政略家であったなら、こんなことはなかっただろう。

家持とはどのような男だったのか？

前述したように、彼は古代有数の豪族大伴氏の嫡男である。物部氏・佐伯氏と同じく軍隊を握る、武門の誉れ高い氏族であった。しかし、時代は変わりつつあった。日の本の国は法治国家をめざしていた。律令体制とそれを支える新興官僚貴族の台頭である。漢文で公文書を作成し、遊興に漢詩を披露するような貴族官僚が時代の寵児であった。鎌足の次男・藤原不比等こそ、その代表である。明治時代の洋行帰りのエリート官僚達といえど理解し易いか。かれらは「やまと歌」など歯牙にもかけなかったにちがいない。

生い立ちのためか、家持は武の人というよりは文の人の魂が強かった人ではなかったか。新興貴

族官僚に反発を感じ、反逆を計画しながら、結局、生涯にわたり政治的激流に一身を投ずることなく、ひたすら保身に心を使い、絶えず局外にたとうとしていた、と思われるふしがある。このような煮え切らないリーダーは、結果的に敵をも味方をも裏切ることになる。

この性格が、彼の死後 20 数日にして起きた中納言・藤原種継暗殺事件に関わったとして、没後に除名の刑を加えられた一因になったのかもしれない。彼は桓武帝の同母弟・早良が皇太子に立てられたとき、春宮大夫として公私にわたり、二人は親密な関係にあった。桓武帝の実子・安殿親王と早良皇太子との後嗣問題のこじれは、すでに桓武の権臣種継と早良の相互の敵意に満ちたものとなっていたらしい。忠良な人柄の家持は当然憂慮しただろう。この際、一族の継人らから打倒種継の計画を相談されたものと思われる。しかし、彼は起たなかった。

なぜか？

想像するに、彼には時代に取り残され、滅びゆきつつあった自らも属する旧氏族の行く末が見えていたのではないか。絶唱「春愁の歌」三首は、この覚知なくしては詠まれなかったと思う。

春の野に霞たなびきうら悲し  
この夕影に鶯鳴くも (四二九〇)

我がやどのいささ群竹吹く風の  
音のかそけきこの夕かも (四二九一)

うらうらに照れる春日にひばり上がり  
心悲しも独りし思えば (四二九二)

家持の訃報に接した継人らは、それに触発され、最後のあがきにも似た暗殺行動に走ったのかもしれない。それは桓武帝の取り巻きの思うつぼであった。早良は廢太子となり、冤罪への抗議のた

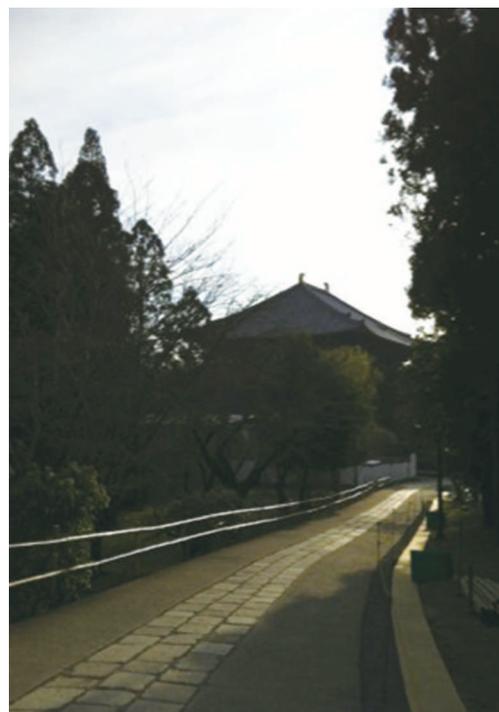


二月堂から望む東大寺の麓と古都の夕暮れ

め自ら飲食を断ち、間もなく絶命した。ここに古代の名門大伴の左保大納言家は癒し難い打撃を受け、その没落を決定づけたのであった。

参考資料：

1. 「万葉集」伊藤 博 角川ソフィア文庫
2. 「大伴家持」北山茂夫 平凡社
3. 「水底の歌」梅原 猛 新潮社
4. 「万葉集 隠された歴史のメッセージ」  
小川靖彦 角川選書



二月堂からの帰り路 夕暮れの東大寺を仰ぎ見る

## 縄文という時代

山口大学 しまふくろう

山口大学の中尾 央らによると、紀元前 1 万 3000 年～紀元前 800 年の、いわゆる縄文時代の狩猟採集民人骨を調査したところ、暴力による骨損傷(殺傷痕)の割合は低く、全期間の平均で 1.8% ほどであった、とのことである。当時の全地域で同様の骨損傷痕は観察されるも、戦闘を示唆するホット・スポットは認められなかった、とのこと。この観察所見は、戦闘は人間生来の性質であるとする従来の説とは一致しない、とかれらは述べている。

約 3 万 8000 年前、日本列島に朝鮮半島などから渡海してきたホモ・サピエンスの末裔らは、狩猟採集をしながら 1 万 8000 年前に縄文土器を発明、それを用いて煮炊きをしていたようだ。Nature 誌によると、世界的に最も研究が進んでいる先史時代土器文化である、わが国の縄文土器(約 1 万 5000～1 万 8000 年前の縄文時代草創期)に付着していた食物残渣を化学分析したところ、高い精度で脂質を回収し、その有機物は明らかに淡水産および海産生物の加工によるものであった、とのことである。

これらの意味するところは重要である。かれらは、稲作技術をもって新たにこの列島にやって来た人々(弥生人)が来るまで、実に 1 万年以上も争いの少ない、土器を用いて淡水産および海産生物の煮炊きも可能な豊かな食生活を維持し、環境にやさしい循環型の定住社会を営んでいた、ということを示唆する。その代表が青森の三内丸山遺跡である。この遺跡からの出土品は質・量とも圧倒的で、これは間違いなく、当時の世界最高の文化水準であったはずだ。

日本には旧石器時代の遺跡が 1 万箇所以上あるらしい。これは世界有数のデータ量で、わが国の考古学者の勤勉さをよく示している。面白いことに、この遺跡の年代は 3 万 8000 年前以降に集中しているらしく、それ以前の原人や旧人が作った石器は日本では知られていない。この意味するところは、古代型人類がいなかった可能性が高い古日本列島に、3 万 8000 年頃ホモ・サピエンスが渡ってきて急拡大した、ということだろう。

ぼくが働いている病院からは、周防灘をはさんで姫島や国東半島が肉眼でもはっきりと見える。おおよそ 40km の距離である。氷期であった 3 万 8000 年前頃の海面はいまより 80m ほど低く、当時の朝鮮半島と対馬の距離がちょうどこの距離であった。ぼくが当時この風景をみていたとしたら、きっといつの日かそこへ行きたい、と空想したことだろう。そしてさらにもう 1 回同じ距離を渡ったら、そこはもう古日本列島である。

最近の人類学の進歩や世界有数の遺跡データを有する我が国の考古学を統合すると、ホモ・サピエンスが集団として日本列島(本州・四国・九州)がつながって一体となっていた「古本州島」に最初に渡って来たのはどうもこの対馬ルートであるらしい。舟を操って・・・

そう、かれらは航海者であった！

航海技術を有する狩猟採集民の日本列島への移住。

かれらは荒れた海で遭難してたまたまたどついたのではない。未知の土地で定住する意志を

持った男女のある規模をもった集団として、危険な海を命がけで渡ってきたに違いない。

なにゆえに？

3万8000年前にかれらが始め、その後沖縄ルートと北海道ルートからそれぞれ列島に入って来た集団も包含して後期旧石器時代は2万年あまり続いた。この間かれらの系譜が途絶えるような、劇的な集団の交替が起こった証拠は見いだされていない。そして縄文時代が始まり、それは紀元前10世紀末（最近書き換えられつつある）に弥生時代を迎えるまで1万3000年以上続いた。

この均一でない縄文人社会に、やがて大陸から数次にわたり小規模の集団（おそらく避難民）が渡来し、水稻耕作や金属器を軸にした新しい文化と社会・政治体制をもたらした。もちろん政治と切っても切れない商取引や軍事制度もともなつて。ここに弥生時代が幕を開けるようになる。このことについては後日また考えてみたい。

参考資料：

1. War uncommon in prehistoric Japan.  
Nature 532: 150-151, 2016
2. Earliest evidence for the use of pottery.  
Craig OE et al. Nature 496: 351-354, 2013
3. A potted history of Japan. Kaner S.  
Nature 496: 302-303, 2013
4. The history of human populations in the Japanese Archipelago inferred from genome-wide SNP data with a special reference to the Ainu and the Ryukyuan populations.  
Jinam T et al. J of Human Genetics, 29, 2012  
(Abstract)
5. 「日本人はどこから来たのか？」海部陽介  
文藝春秋
6. 「日本の伝統 “縄文土器 - 民族の生命力”」  
岡本太郎 光文社知恵の森文庫
7. 「日本人になった祖先たち DNA から解明するその多元的構造」篠田謙一 NHK ブックス
8. 「アイヌと縄文 —もうひとつの日本の歴史」  
瀬川拓郎 ちくま新書
9. 「縄文人からの伝言」岡村道雄 集英社新書
10. 「骨が語る日本人の歴史」片山一道  
ちくま新書



勤務する病院から眺める周防灘。晴れた日には姫島や国東半島がはっきりと見える。かなたの島影をみて、古代の航海者たちはなにを思ったか。

## 真田幸村の子、幸晴

徳山 板垣 明味

真田幸村として知られる戦国武将、真田信繁を主人公とした NHK の大河ドラマ「真田丸」が話題となりました。真田幸村は豊臣方の武将で、大坂の陣で徳川家康を窮地に追い込みながらも、あと一步のところまで討ち死にし、後に「日本一の兵」と称賛されました。その真田幸村の子の墓が周南市櫛ヶ浜にあることをご存知でしょうか。

櫛ヶ浜には真田幸村の子、幸晴が西に逃げる途中で嵐に遭い、ここ櫛ヶ浜に流れ着き、鍛冶屋を営んだという言い伝えがあります。櫛浜郷土史会（会長 村井洋一、<http://book.geocities.jp/kusikyodosi/>）では 40 年間にわたり「真田幸晴伝説」の解明に取り組んできました。このたび新たな資料が見つかり、その信憑性が高まってきたのでご紹介します。

JR 櫛ヶ浜駅のそばにある曹洞宗洞庭山原江寺には真田幸村の子、幸晴夫妻の墓と真田家の家紋

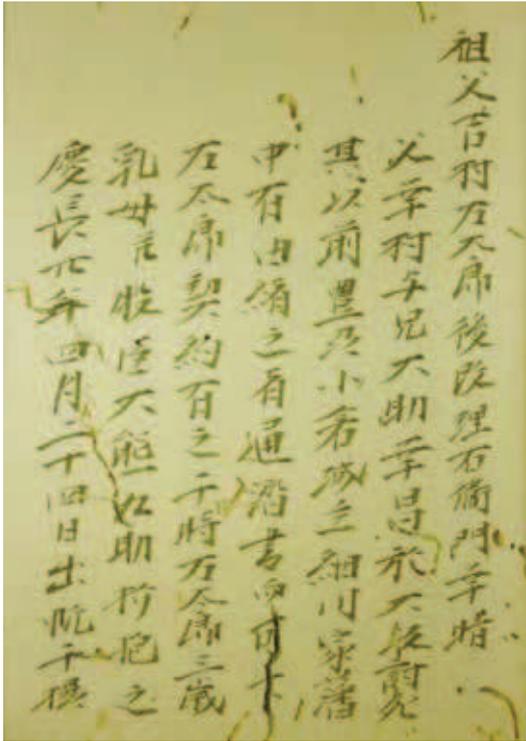
である六文銭が台座に刻まれたお地蔵さんと真田幸晴の末裔、従六位勲六等 河村幸雄が建立した石碑があります。石碑の表には「幸村幸晴君夫婦之墳」、裏には「幸晴君 俗称理右衛門尉 真田幸村君之末男也 寛文六年十月廿六日病歿干栗屋村妻君者同村農茂八之女 延宝九年正月十日歿焉 今茲 明治三十二年十一月九世之孫 従六位勲六等 河村幸雄建立」と刻まれています。

まず石碑の建立者である河村幸雄について、従六位勲六等の叙勲を手掛かりに内閣府賞勲局で調べたところ、河村幸雄は福岡、八戸等全国の裁判所判事を歴任し、『明治法規大全』、『日本刑法講義録』等を執筆した人物である事が分かりました。さらに過去の文献をたどると、慶応元(1865)年 9 月 9 日付けの徳山藩有志血盟書に河村靖之進幸虎(幸雄)の血判を見つけました。長州藩士として河村幸雄は四境戦争・戊辰戦争などの討幕に参戦したと考えられます。250 年の時を経て、先祖である真田幸村の徳川に対する仇を返したことになると思います。

さらに、山口県文書館で徳山毛利藩の関係文献を調査していくと、真田幸晴の孫が、祖父の幸晴について記述した「譜録」にたどりつき、そこには伝説と一致する内容が詳しく書かれていました。「吉村理右衛門譜録」(寛政三(1791)年)(徳山毛利家文庫、山口県文書館所蔵)には「大坂夏の陣で父の真田幸村と兄の真田大助を失った 3 歳の左太郎(真田幸晴の幼名)は、大坂夏の陣の直



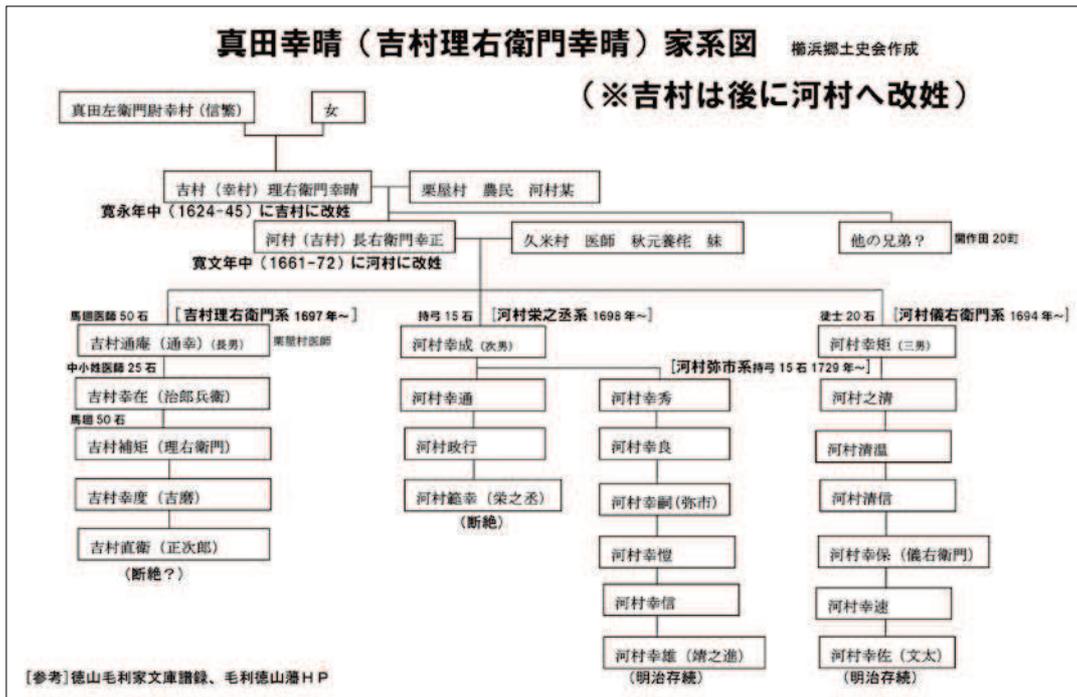
真田幸村の子、幸晴の墓



真田幸晴の孫が徳山毛利藩に提出した「吉村理右衛門譜録」の一部 (山口県文書館 所蔵)

前の慶長 20 年 4 月 24 日に、乳母と家臣大熊九助らとともに小倉城主細川家を頼り大坂を出帆したが、5 月 4 日徳山の馬島沖で暴風に遭った。家来の死や盗賊に襲われるなど災難に遭いながら、平野浦（現在の周南市富田）に暫く身を隠した後、小倉に 3 年間滞在した。左太郎の事を耳にした城主（徳山毛利藩初代就隆か）が食録を与えるとのことで、再び徳山に戻り、櫛ヶ浜の栗屋村で農民河村某を嫁に娶り、干潟 20 町を開作し永住した。」と記載されていました。真田幸村の遺児である幸晴が言い伝えどおり、現在の周南市櫛ヶ浜に居たことを示す証拠だと言えます。真田幸晴は父「真田幸村」にちなみ、「幸」を「よし」と読み変えて幸村幸晴と名乗り、後に吉村幸晴と改めました。幸晴の子の吉村長右衛門幸正（後に母方の姓の河村と改姓）は幸晴の遺言で一生浪人でしたが、孫の吉村通庵（通幸）は徳山毛利藩に馬廻の医師 50 石として仕官しました。吉村通庵の弟幸成も母方の河村姓で持弓 15 石として仕官し、以後、明治の廃藩置県が行われるまで続いています。

残念ながら真田幸晴の名はほとんど知られておらず、現在は真田家の家系図に載っていません。



真田幸晴の母は誰だったのでしょうか。当時の武家では、家を絶やさないために複数の側室を持っていました。豊臣秀次(三好家の跡取りだったが、豊臣秀吉の養嗣子になった)の娘の隆性院は真田幸村の側室の一人です。隆性院には、真田家の系図に残る男の子がありました。真田幸村が討死にした2か月後に生まれ、名は三好幸信、幼名を左次郎と言いました。左太郎と左次郎、よく似た名前です。元服して左太郎は幸晴、左次郎は幸信に改名します。この名の後の文字「晴」と「信」を繋げると「晴信」となり、真田家のかつての主君「武田晴信(信玄)」に忠誠を誓った命名であるとも考えられます。

真田幸村の名は有名ですが正しくは信繫であり、死後60年近く経った寛文12(1672)年に刊行された軍記物語「難波戦記」に初めて真田幸村の名が出てきているので、幸村の名は創作だとも言われています。庶民の間で人気があり、幸村の名があまりに定着したため、江戸幕府編纂の「寛政重修諸家譜」や兄の真田信幸(信之)が藩主を務めた松代藩の正式な系図にも幸村と記されています。私たちが調べた譜録でも信繫ではなく、全て幸村と記載されていました。また真田幸晴が幸村幸晴に改姓したのは寛永(1624-45)年間で、『難波戦記』よりも前です。「幸村、吉村」という姓の存在が、信繫が「真田幸村」と名乗っていた事の裏づけになるとも言えます。

また、櫛ヶ浜の栗屋には「真田幸晴と共に逃れてきた者に刀鍛冶がおり、教学院(現在の曹洞宗吉祥院)の下で鍛冶屋を営んだ。幸晴も長じて鍛

冶屋を営む。ただし追手を避け、真田を名乗らず河村幸晴と称した。ちょうど毛利氏の農地開発、食糧増産奨励のときで、農具の生産、修理は繁盛を極めたという。よって幸晴の居宅の周辺は小字鍛冶屋河内、近くの川は鍛冶屋川と呼ばれるようになった。」との伝承が残っています。教学院は山伏寺で、真田幸村が山伏の姿で伝心月叟と名乗り、蟄居していた九度山を脱出し大坂城入りした事にも関連がありそうです。

真田幸晴夫婦の墓がある原江寺の近くに真田家ゆかりの甲冑を継承している家系があります。この家の先祖は山伏修験道快照院の袈裟頭で、本家の河村某が甲冑を安全のため、分家であるこの家に預けたとの口伝があります。最近の調査によると、この甲冑は江戸時代初期から中期に作られたもので、上士の家に伝わるものだとわかりました。兜の左右の吹き返しと両手甲の4カ所に六文銭があしらわれています。

いま、周南市の真田幸晴ゆかりの地には六文銭の印がついたのぼり旗がたてられています。「真田丸」の放映後、この地を訪ねる人も増えていきます。原江寺の墓碑やお地蔵さんの前には六文銭に見立てた五円玉が供えられています。

地元の周南市櫛ヶ浜では真田幸村の子、幸晴がちょっとしたブームとなっておりますが、一般の知名度は低いです。櫛浜郷土史会は地区の文化祭で真田幸村の子、幸晴について展示をしたり、真田幸晴ゆかりの地巡りを企画したりと、地域の活性化に役立てようとしているところです。



## 四万十川ウルトラマラソン 100 キロの部完走記 ～ゼッケンナンバー 1 は絶対にリタイア出来ない番号

宇部市 金沢 守

私は 2015 年 8 月に大怪我をしたため、2016 年の 2 月からようやく競技への出場を再開しています。そんな中で 2016 年 10 月 16 日に高知県四万十市中村を中心とする地域で開催された“第 22 回四万十川ウルトラマラソン 100 キロの部”に出場する機会を得ました。この大会は抽選で出場する事が出来るかどうかが決まります。毎年 6 月に北海道で開催されるサロマ湖ウルトラマラソンと並んで、非常に人気がある大会です。サロマ湖に行くよりは近いですが、高知県の中村もなかなか遠いです。私はこの大会に過去 2 回出場した経験があります。従って、コースや大会の雰囲気はよく分かっています。戦績は以下の通りです。

2012 年 10 時間 04 分 24 秒（この記録は今でも 100 キロウルトラの自己ベスト）  
2014 年 10 時間 25 分 52 秒

2012 年は 80 キロを過ぎた辺りでサブテン（100 キロを 10 時間以内に完走する事）を少しでも意識していたら、何とかあった可能性はあった気がします。今でも、もう少し頑張ればよかったと後悔しています。昨年 10 月に出場した時の私の旅程は以下のようになっています。前日の 18 時までには受付けを済まさなければなりませんので、止む無く土曜日を終日休診にしています。

新山口 9:40 → 岡山 10:49  
岡山 11:05 → 高知 13:41  
高知 13:49 → 中村 15:31

高知駅から中村駅までは同じ電車に乗っているのですが、窪川駅から中村駅の間は JR 四国ではなく、土佐くろしお鉄道という第三セクターが運営する区間になります。窪川駅までの指定席をネットで購入し、電車内で窪川から中村駅までの乗車券+特急券を追加購入すればよかったのですが、この電車は例年、四万十川ウルトラに出場する人達で非常に混雑するので、乗車券が購入可能となる 9 月 15 日、午前 10 時に新山口駅のみどりの窓口まで切符を買いに行きました。旅行会社も土・日・月の 2 泊 3 日で宿泊などを申し込む人達には優しいのですが、私のように土日の 1 泊 2 日で申し込む人への扱いはぞんざいです。中村駅に着いたら、シャトルバスで受付会場である四万十市民スポーツセンターに向かいました。この大会では前夜祭の会場にもなっている四万十ロイヤルホテルに宿泊出来たので、随分助かりました。レースは 5 時半スタートなので、当日の朝は遅くとも 3 時には起床しなければなりません。2015 年のこの頃は、まだハローベストなる装具を装着し、歩行器にしがみついて、ようやく歩行訓練を再開したばかりでした。それでも、絶対安静の期間が約 2 か月近くありましたので、リハビリが本格的に始まってからは入院生活もかなり充実したものになったものです。完全仰臥位の体勢で眼鏡をかけると眼鏡の重みが不快なので、テレビも薄ぼんやりとしか見えませんでした。又、新聞や雑誌などを読む気にもなれませんでした。しかし、座位を保てるようになり、眼鏡を掛ける事が可能になると、世界が一変しています。妻に頼んで新聞や書籍を持ってきてもらい、相当な量の本を読みました。この大会に向かう道中も、

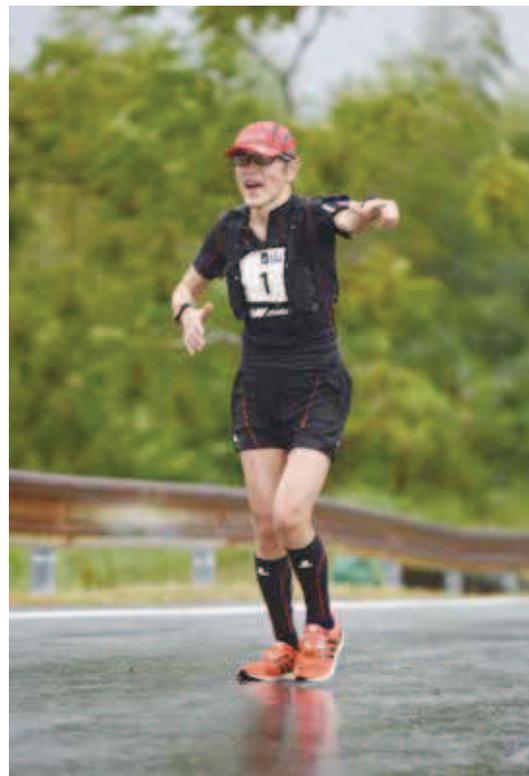
一年前には歩く事さえできなかった自分が 100 キロウルトラに挑戦する事が出来る事に感謝しなければならなと感じました。そして、この大会で私が付けるゼッケンナンバーは 1 番でした。

1 番などというゼッケンナンバーを付けることが出来るのは今回しかないかもしれません。通常は招待選手のエリート選手がつける番号なので、大した記録を有していない一般人には縁遠い番号です。陸連登録している事と、陸連の登録証明を大会事務局に早めに提出した事が幸いしたようです。タイムは 11 時間 06 分 01 秒かかり、四万十川ウルトラマラソン史上最悪の記録に終わっています。まさか 11 時間以上もかかってしまうとは思っていませんでしたので、非常に残念ですが、ウルトラ対策など全く行っていなかった事が主たる要因だと思います。過去に二度、四万十川ウルトラに出場していますが、途中で歩いた記憶はありません。しかし、今回は序盤のきつい登りでは歩かなかったものの、50 キロを過ぎてからは何度も歩いてしまいました。四万十川って、こんなにキツかったかなと感じました。ちなみに天候に関しては大雨の予報が完全に外れ、雨は途中から降りだしましたが、終日雨という最悪な状況は回避出来ました。正直、何度もリタイアが頭を過りました。しかし、他の選手やボランティアの方々、沿道で声援を送る人達からゼッケンナンバー 1 番について触れられたり、羨ましがられたりする事が余りに多く、これは絶対に止めるわけにはいかないと感じました。

そして、土曜日に診療所を休診にしてまで出場した大会で、完走メダルも完走証も手にする事なく手ぶらで帰るわけにはいかなかったのです。2016 年 10 月は四万十川ウルトラの前にトレランやハーフマラソンなどウルトラとは関係が薄い競技に出場していたのも、よくなかった気がします。フルやハーフのタイムが徐々に上向いて



きたから、ウルトラも大丈夫だろうという考えが甘かったとも思います。今考えたら、思い切って四万十川ウルトラ一本に絞ってもよかった気がします。2016 年、リオオリンピックが行われ、卓球女子個人、団体に出場した福原 愛選手が、3 位決定戦で銅メダルを獲得した時、「メダルのないオリンピックと、メダルのあるオリンピックとは全然違うので、皆で励まし合い頑張った」とコメントしていました。水泳のリレー種目でも



「〇〇さんを手ぶらで帰らせるわけにはいかない」という言葉を何度か耳にしました。オリンピックと私のような市民ランナーを同列に比較してはいけません、手ぶらで帰ると翌日以降、心が大きく傷付きます。この傷は、同じ大会を完走する事でしか癒やされる事はありません。勿論、2017年1月号の炉辺談話に掲載して頂く原稿を書くためにも、そして2017年の年賀状に用いる写真を撮って頂くためにも、フィニッシュテープを切る時の写真は絶対に必要である事が背中を押してくれました。もう二度とつける機会はないゼッケンナンバー1は永久保存するつもりです。



タイムが悪かった事は帰りの電車にも影響を及ぼしました。

当初の予定では中村駅 16 時 57 分発のあしずりに乗り、新山口駅には 22 時 35 分に到着する便を予約していました。しかし、完走に要する時間が思いの外かかったため、その日の旅程は以下のように変更になっています。

中 村 17:45 → 高 知 19:28  
高 知 19:34 → 岡 山 21:57  
岡 山 22:13 → 広 島 22:49  
広 島 23:05 → 新山口 23:48 (こだま)

残念ながら、新山口駅から車で家に帰る頃には日付が変わっていました。2年前に中村駅で弁当を購入しようとしたら全部売り切れていたの、今回はそれを見越して、前日にローソンでパンを購入していました。予想通り、中村駅の弁当は売り切れていました。

又、高知駅のホームには売店がありますが、営業は早々と終了します。これも2年前に学習しました。この日の本格的な食事は岡山駅のセブンイレブンで購入した焼うどんでした。尚、中村駅発のあしずりには四万十川ウルトラの出場者達がそこそこ乗っていました。もし、17時45分パッケージあしずりに乗れなければ、19時34分発のあしずりで岡山まで行き、日曜日は岡山に宿泊し、明日の始発で新山口駅に帰るという第3案まで考えていました。四万十川ウルトラのコースを余裕の10時間台で戻って来れるようになるまでは、まだ練習が不十分だったけど、ゼッケンナンバー1に救われたと思っています。

# なぜ此处に

徳山 吉次 興茲

毎年のように初夏にはハスの写真を撮りに行く。今年も夜明けとともに源久寺に大賀ハスの写真を撮りに行った。時間的には花は半分開花した状態で初々しさを感じる。開いたものや、つぼみ・落ちた花びらなど、様々な状況を撮り終わると汗だくになる。一休みして次の撮影地にとそのまま山口方面に車を進めた。道沿いに棕櫚の木があり、凌霄花のうぜんかずらが巻き付いて、今を盛りと咲きほこっている。遠くからでもオレンジ色がまぶしい。その形が面白く、いろんな角度から写しながら、ふと見ると側のバス停にあるベンチの下に女ものの靴が揃えて置いてあった。ブルーの上品な靴だったが、型崩れもなく、とても捨てていったようには見えない。よく見ると蜘蛛の巣があり、埃もたまっていた。随分と前から置かれていたもののようにだ。

この靴はどんな物語を秘めているのだろうか。ここで履き替えて、ただ忘れたのか。このバス停を利用する人に違いないが、とても捨てていったとは思えない。しかし、忘れたものならすぐ取りに来ただろう。取りに来られない理由とは何だろう。いったい誰が、どうして置いていったのか。

## 時の過行くままに

凜は 20 代半ば、身長は 160 cm を少し超えたぐらいだろうか、見た目にはやや高めに見える。髪はミディアムボムパーマを少し崩し、少し子供っぽい髪型が、つんとした鼻やとがった顎の冷たくなる印象をうまく調和して優しさを醸し出し



ている。全体的に贅肉の少ない鎖骨が浮き出ている痩せ形の体型だが、そこそこに筋肉はあり、小麦色の肌とともにテニスのラケットがよく似合う活動的な様子がうかがい知れる。だが控えめなネイルアートは彼女の性格を垣間見せている。

そう、あれは 4 年前の 6 月の上旬、大学を出て郷里の中堅新聞社に事務員として働きだした頃のこと。会社帰りのバス停に着いたとき、慌てて出勤したためにいつもはバッグに常備している折り畳みの傘を忘れたことに気づいた。途中から降りだした急な雨に困惑し途方に暮れていた時、高校時代の先輩の車が止まった。今日まであまり話したことは覚えていないが、顔見知りではあったため、誘われるままに車で自宅前まで送ってもらった。それがきっかけで特定のボーイフレンドがいなかった凜は自然と付き合いが始まった。会うほどに社会人として自信に満ちて働いている先輩に惹かれていく自分が心地よかった。時には彼の会社の友人たちとのグループで出かけることもあり、自分の職場では見られない社交辞令を超えた体育会系のノリも新鮮だった。そして 2 回目の誕生日祝いにと凜の好きなブルーのパンプスをプレゼントされた。食事や映画、ドライブや遊園地、動物園。凜はいつもこの靴を履いていた。水泳の得意な彼は山陰の綺麗な海にも仲間たちと一緒に連れて行ってくれた。凜も自分の親友を誘って行った。キラキラとまぶしく輝く波頭、時折寄せてくる大きな波。一緒にふざけあう彼の友人とその彼女たちとはもう何年来の仲間といった気持ちだった。泳ぎ疲れた後のバーベキューは、三ツ星レストランの味がした。

そして 3 年を過ぎたころ、凜はだんだんと自分の仕事が見えてきた。持ち込まれる記者たちの原稿は三面記事やスポーツ・音楽といった身の回りの小さな事故や娯楽関係が大半だが、中には子育て問題で会社を辞めざるを得なかった主婦の話題、自分のいた中学の後輩の自殺。痴呆老人の徘徊、独居老人の孤独死、隣町の工場の排水汚染など、今までは言われるままに機械的にパソコンで清書していた記事の内容が彼女の心に棘刺すような痛みを生み出した。何度も彼にその話をした

が、現実主義で楽天家の彼とはこの話題はかみ合わず、いつも途中切れとなってしまう。彼と居るのは本当に楽しい、でもこのイライラは何だろう、このもどかしさがどうして伝わらないのだろう。

「あなたの側で起きている問題よ」

「うん、でも俺は今、君といることの方が大切なんだ」

最初の頃、彼女を酔わせたこの言葉にも、あの頃のときめきは生まれてこない。

少しずつ彼の側にいる場所が狭く窮屈になっていく。出会った頃は何のわだかまりもなく、1 分も待ち遠しい心の高揚は生まれてこない。自然と会う間隔が開いていく。そんな凜のギクシャクした気持ちの変化を感じ取った彼が、凜の女友達と 2 人で楽しそうに食事をしているのを見てしまったときに、凜の気持ちは折れた。

「ありがとうございました。お元気で」

凜はあのバス停で下車すると大切にしていた靴を脱ぎベンチの下にそっとそろえた。

あふれてくる涙をぬぐいもせず、じっと前を見つめて痛む足を踏みしめて歩き始めた。



## 野生のエルザ (Born Free)

下関市 塩見 祐一

最近の洋画は原題のままのカタカナ、しかも基本英単語じゃなく「intersteller」とか「transcendence」なる難解語だから困ってしまう。1966年の標題作品のように「なるほどね」とうならせてほしい。

ところで、僕の塩見という姓は自分じゃそれほどめずらしいと思わないが、他人にとっては違うらしい。だから、以下のような方々と血縁があるの？と聞かれて面はゆかったことも度々だったので、ソナナ由無し事を書きつらねてみる。ただし、東北楽天ゴールデンイーグルスの塩見貴洋 投手の知り合い？と尋ねられたことはない。勿論だけれど、吾が風采からして体育会系には見えないのだろう。

### ○塩見俊二さん

僕の師事した K 先生が社会保障制度審議会々長まで登りつめた頃にあったゼミ同門会で「塩見君は今の塩見厚生大臣の親戚ですか？」と聞かれた。「いえ、とてもとてもそんな偉い方とは何の所縁もありません」と手を振った。最近、中公新書『大日本帝国』崩壊 東アジアの 1945 年』を読んで、その方が台湾総督府で戦後処理にも大奮闘されたのを知った。

### ○塩見鮮一郎さん

社会保障論を勉強して、「貧乏」には先天性（生まれついて）と後天性（病気や失業から）の二種類があるとみた。貴方みたいに前者の中世以来の貧民層を殊更に取り上げるのって意味がなさそうよね。15 年前の下関市立大学大学院・経済社会システム専攻在学中に、同級生から「塩見さんに

関係ある人？」と聞かれたので、「いやあ、全然」と返事をした。

### ○塩見孝也さん

赤軍派議長で鳴らした新左翼の武闘派的指導者。僕が医学部入学の 1969 年には、その嵐が地方にも吹き捲る。ある集会で僕が「マルクスはそんなこと言ってない」と手をあげたのを憶えていたのか同級の M 君、後年に母校教授となり、ポリクリで回った僕の長女に「塩見孝也を知っていますか？」と。もちろん彼女は「全く、知りません」と言ったとサ。

### ○塩見巳代治さん

来年で当院は開業 27 年目を迎えようとしているが、その前年の秋に下関市医師会北部班の班長先生へ挨拶に行った時「つながりでも？」と聞かれたし、開院後も医師会の先輩先生から「お父さんによく似ておいでだ」とか、患者さんから「昔、田中町の塩見先生にはよく診てもらいました」と言われた。僕の方はお目にかかったこともないのに。

### ○塩見利明さん

去年だったか、患者さんに「テレビで見た睡眠の先生と同じ名前だけど」と聞かれたので、「あの睡眠時無呼吸症候群で有名な人ね。けど関係ないです」と答えた。僕の初 SAS 症例は 40 年前で、その Pt は新妻から「夜中息をしていない」と驚かれ、受診。当時だから「やせなさい」とか「横向きで寝たら」と指示したのだと思うも、よく覚えていない。

1977 年の米 TV ドラマ「ルーツ」式に家系を見ると、僕の祖父は二男だったか何かで塩見の家へ養子に入っている。ご先祖さまに医家はいないが、それはさておき、昨今、いろいろと世襲が問題・話題になっている。我が家のような「蛙の子は蛙」に属す社会よりアッパーなレベルでは、同じ「切磋琢磨」でもスタート地点が何 10 メートルも先なのは有利なのだろう。

まあ、僕にかぎっては、先祖代々や誰々二世は御免こうむりたい。だって、たった一度の人生だもの、その多くの時間を占める仕事は自由に選びたい。ということで、やっと副題「Born Free」に辿り着いたのでした。



「善悪二元論」と「神意・天命」  
 — 刎頸の友 福島県医師会長とのこと —  
 萩 市 山本 貞壽

年が明けて、明治維新・会津戊辰戦争 150 年は来年（2018 年）という目前。

高谷雄三・現 福島県医師会長が平成 14 年から（当時は会津若松医師会長）『會津医師會報』に記録し続けてくださった会津と長州・萩との交流は、今年 10 月号の「会津～萩往還 国家の品性・国民の理性」により通算 149 号という膨大な量。両地のことを語る上で既に貴重な資料になっています。

日本は永い歴史を持つ、言論の自由が保障されている平和国家となっていることを慶びます。

150 年が目前となり、記念行事や主張がひとしきり盛り上がってきているのは当然のことです。私はもちろん、写真 1 に代表される主張にも大いに注目しております。

高谷先生と私とは会津人と長州人という立場から、前を見つめた意気通じる同志として、本業の傍らながら撓むことなく一貫して参りました。こ

まできますと、他人が追従できない独自の領域となっているでしょう。いま想いますと、本当にたくさんの方にお世話になって参りました。すでに亡くなられた方々が目に浮かびます。忘れてはならないと改めて心しているところです。

独自と申しましたことを纏めてみます。

### 1 善悪二元論

「……歴史論争は、自分は絶対に正しくて相手は常に間違っていたという善悪二元論ばかりになってしまっており、よりよい方向に向かう動きとは決して言えません」。これは、ご業績の一端しか目にしていないファンで申し訳ないのですが、『日本人が教えたい新しい世界史』というスケールの大きな主張を述べられる著者・宮脇淳子さんの言葉です。私たちのスケールは小さいながら（?）、終始こうしたスタンスでした。既に小さいながらも（?）、いくつかの実績も残しました。

### 2 神意・天命

畏ろしいことを言っています。でも信じているのです。高谷先生と私の出会いもそう言うて良いでしょう。小説より奇！。先生はいつか私に書いてくれています。「天はできそうな者を選んで与える」でしたか。

本当に僭越なのですが、一昨年 NHK 大河ドラマ「花燃ゆ」に私の母方の祖先二人（次頁表）が短い場面ですが登場しているのです。二人は松下村塾生で、ドラマを機につくられた『歴史読本』（KADOKAWA）で次のように紹介されているのです。山根孝中は、会津戦争で敵味方の区別なく治療にあたった、と記してあるのです。小説より奇を思い知ります。

会津戦争・戊辰戦争となりますと、まず悲愴な白虎隊が頭に浮かびます。飯盛山での白虎隊自刃



写真 1 会津で発刊の雑誌の最新号。表紙にある書籍は版を重ね、よく読まれている。

小野 為八	寺社組、本道医 63 石	30	萩	鴻城軍大砲隊長を務める。維新後は写真や酪農、 絵画などに取り組み、多数の作品を残す。
山根 孝中	寺社組、一代雇医 25 俵	36	萩香川津	塾生最年長の名軍医。会津戦争で敵味方の区別 なく治療にあたった。

出典元：『歴史読本』（KADOKAWA）

の件は、慶応四年（1868）旧八月二十三日のことでした。

萩を訪れられる会津の方が必ずとっていいほど、よくお参りされるのが唐樋町の地藏堂。ここには「白虎隊石版絵図」が掲げられているのです。蘇生者飯沼貞吉のことも記してあります。

私は飯沼貞吉蘇生のことについて、『会津人群像』（2010年 No16）に投稿を許されました。「首には、生存上極めて重要な組織がギッチリつまっています。刃が通れば時間の早い遅いだけで極めて致命的。ましてや当時の医学レベル。あまりにも奇蹟だから神意・天命であったとしか考えられない。将来に何かを語り伝えるための神意と信じるのです。飯沼貞吉の『貞』は、鼎の形を描いた象形文字で、のち『ト』を加えた『ト + 音符鼎』なので、その意味は『占って神意を聞く』『正しく神意を聞きあてる』となるのです。』そして私の名は貞壽！歴史の神の指令？。なお、この地藏堂と白虎隊石版絵図は『會津医師會報』2002年12月の表紙になっている。」

厳然たる事実、私には青天の霹靂。神意を信じた事実を報告します。

飯沼貞吉隊士のご令孫三人が揃って奥さま同伴で来萩、私を訪ねてくださったのです。2016年10月15日萩宿泊、16日（日）に地藏堂で町内の方々と一緒に写真を撮りました。私は白虎隊のことも入っている「下北哀史」のテープを持参して参拝に合わせました（写真2）。そして、近くの茶室にて茶を楽しんだのです（地藏堂の毎日の清掃献花の責任者である原田靖子さんのご厚意による）（写真3）。

会津と萩・長州それぞれの立場から

2日間にわたり温かい交流ができたのです。私はこれを書いている数日後には東京にて、会津の有志と150年記念に両地が何ができるかの話し合いに出かけます。

でも6年目も近くなる3.11に絡む、「原発避難いじめ」のニュースや、観たばかりのドラマスペシャル「五年目のひとり」、など胸が詰って！

神よ！11月22日、また福島・宮城に地震と津波！



写真2 白虎隊石版絵図の掲げである萩市唐樋町・地藏堂での飯沼貞吉ご令孫の三名（前列左側の男性）



写真3 地藏堂近くの茶室でお茶を楽しまれたご令孫三名

# 山口県の道の駅めぐり その 2

徳山 若林 信生

山口県の道の駅 10 か所を紹介してきましたが、残りの道の駅も個性がある所があるので、ここに紹介しましょう。

xi) 道の駅「きくがわ」 国道 491 号線を小月から長門市方面に向かって進むと、菊川の街中に、和風の立派な建物がある。これが道の駅「きくがわ」である。この地方で採れる農産物や名物のソーメンがある。道の駅としては小さい方であるが、ここよりバイクで 3 分くらいの所に「きくがわ温泉華陽」という温泉がある。温泉は小ぶりであるが、湯は柔らかく良い。地元の人にとっては銭湯のようなところであるのか、シャンプーや石鹸は備えつけられていない。豪華な温泉より、銭湯のような温泉の方が、より庶民的で気楽に利用できて雰囲気も良いことが多い。

xii) 道の駅「北浦海道 豊北」は国道 191 号線の豊北町神田にあり、少し北上すると角島がある。山口県では新しい道の駅で、小高い所に、眼下に神田湾を見下ろし、遠くには角島大橋が見える絶好の場所に建っている。この地方で採れる農産物や海産物が豊富にそろえてある。何故か東北の地震や津波による被害から立ち直るためにとの事で、東北の特産品も売っている。

ここのレストランの食事は美味しい。海産物が新鮮で良い食材であるためと思われる。

近くには角島があり、すばらしい

角島大橋がある。この大橋の通行が無料というのはいはうれしい限りである。季節ごとに何度でも行きたいところである。

xiii) 道の駅「萩往還」 国道 262 号を萩に向かい、以前は有料道路であった県道 32 号萩秋芳線（旧萩道路）を市内に進むと、道路をまたぐ大きな昔の「門」の様な建物がある。そこが道の駅「萩往還」である。道の駅としては小さい方だが、建物はすべて古風なもので、瓦葺きでもあり風情がある。

吉田松陰はじめ松下村塾出身の面々の銅像が建っている。松陰は左右に高杉晋作と久坂玄瑞を従えて、愛弟子に遠く未来を指し示しているかのようである。

またここには「松陰記念館」もある。吉田松陰と松下村塾の資料の展示をしている。幕末の混乱期にも松陰なく、松下村塾なければ日本はいっ



道の駅 萩往還

たいどうなっていたのであろう。

幕末・維新およびその後の明治時代の長州藩の果たした役割の大きさに改めて驚かされる。

xiv) 道の駅「長門峡」は国道 9 号線を山口から津和野の方に向けて進むと、阿東町の長門峡入り口にある。国道に沿って細長く、赤瓦のこじんまりとした建物である。普段は人出の多い道の駅ではないが、紅葉の季節では駐車場が狭く、駐車に苦勞する。長門峡を散策するのもよし、JR 長門峡駅で蒸気機関車 (SL) を撮影するのも良い。

xv) 道の駅「ハピネスふくえ」は萩から山間部を通過して三谷に抜ける県道 11 号線沿いにある。鉄骨造りのガラスの高い屋根があり、特徴のある道の駅である。右手のガラス造りの温室様の建物には地元の農産物が、左手の普通の建物には休憩所とレストランがある。

小さな道の駅で人出も多い方ではないが、日当たりも良く、開放感のある気持ちの良い道の駅である。

xvi) 道の駅「きらら あじす」 山口市阿知須のきらら浜にある。直ぐ近くにきららドームやプールがあり、また野鳥などを観察する自然観察公園があり、道の駅の中では賑わっている方である。周囲に視野を遮るものが無く、遠くまで見渡せ、開放感のある道の駅である。地元の農産物などの商品は多くはないが、ここを利用するたびに「かんづけ」を購入し、また、我が家のめだかの購入・補給の基地となっている。併設のレストランも丸である。

xvii) 道の駅「萩・さんさん三見」は国道 191 号線の萩・三隅間はきれいなバイパスが出来上がり、有料道路と見違えるような立派な道路が出来たが、その中間部の三见到に小さな道の駅がある。トイレと平屋の一棟の小さな道の駅で、県内でも最もこじんまりしたものではあるまい

か。地元の農産物と地元の食材を使った小さなレストランがある。

北側にきれいな日本海が見え、景色は良いが、残念ながら視界がちょっと狭い。

道路から少し入らなければならないのがマイナス点か？

xviii) 道の駅「ソレーネ周南」は国道 2 号線の周南市の西の端の戸田にある。大きく弧状を描く屋根の下には、地元の農産物や海産物の売り場があり、また研修室や広場もある立派な道の駅である。最近出来たばかりで、駐車場もひろびろとしていて開放感のあり、県内でも大きい方で、新しくきれいな道の駅である。国道 2 号線沿いでは山口県内唯一の道の駅である。

直ぐ近くには湯野温泉がある。湯野温泉は国道 2 号線から少し山手に向かえば静かな山里に小さな温泉郷がある。国民宿舎と数軒の旅館があるが俗にいう「温泉街」はない。泉質も良く、のんびりするには絶好の温泉であり、日帰り温泉もある。お勧めの温泉である。

xix) 道の駅「上関海峡」 国道 188 号線を平生町で県道 23 号線に乗り換え、南の上関に向かえば、上関大橋に辿り着くが、その手前の海沿いにある。山口県内では新しい道の駅で 2014 年 (H26) 12 月に開設されたばかりである。前に上関海峡を臨み、南側を見れば上関大橋がすぐ近く



道の駅 きららあじす

に見える、絶好の所にある。商品は海産物が主である。建物は小さい方で、駐車場も狭い。

しかしバイク用の駐輪場があるのは丸である。直ぐ近くには上関温泉「鳩子の海」がある。この温泉は見晴らしがよく、泉質もよい。そして洗い場も広く、ゆったり出来るのが良い。二重丸で何度でも来たい温泉である。

xx) 道の駅「うり坊の郷 katamata」 国道 9 号線を徳佐で国道 315 号線に乗り換え、須佐に向かって北上すると、丁度中間点の位置にある。小さな道の駅で農産物の販売が主であるが、名前の通りボタン肉も売っている。周囲には特別なものは無い。人出の多くない道の駅である。小休止には良いが、大休止にはあまり向いていないような気がする。

xxi) 道の駅「あいお」は山口市の秋穂にある道の駅で、県道 25 号線にある。秋穂はクルマエビの養殖で有名である。県道 25 号線を走ると、小さな四角錐をした白い屋根が 6 棟並ぶ建物がある。これが道の駅で、県内でも小さい方で人出もあまり多くない。商品も少ない方である。ここでもクルマエビを販売しているが、クルマエビを食するならば、もう少し先の国民宿舎「秋穂荘」

に行けばよい。美味しいクルマエビが十分に食べられる。

ここ秋穂荘の温泉も開放感があって良いが、少ししょっぱい。しかし見晴らしは抜群であり、また来たい温泉である。

xxii) 道の駅「あさひ」は萩と山口の宮野を結ぶ国道 262 号線沿いにある。萩市の佐々並は萩往還道の休憩地点として栄えた場所で、そこに道の駅を作ったらしい。山間部で周囲にも特別なものはなく、地元の農産物を販売している。道の駅自体も小さい方で屋内にゆっくり出来るスペースはない。ちょっと休むには良い。

xxiii) 道の駅「潮彩市場防府」平成 27 年に出来た一番新しい道の駅である。普通は道の駅は幹線道路か主要道路に面して建っているが、この防府の道の駅は主要道路からはかなりはずれた港に接したところに建っていて「道の駅」と言うより「港の駅」という感じである。

売り場は魚市場のすぐ隣にあるので、海産物は豊富でしかも新鮮でなにより安い。2 階の見晴らしの良いレストランではその新鮮な魚介類が食べられる。魚介類が好きな人には見逃すことが出来ないスポットである。

また、すぐ前にも食事処があり、客の注文によりいろいろ料理をしてくれる。所要道路沿いではないが、是非行ったみたい道の駅である。

山口県の道の駅 23 か所をバイクや車で訪れた印象を綴ってきたが、私の独断と偏見に満ちたものなので、あまり参考にしないでいただきたい。



道の駅 あいお